

おい図書館

No.119

発行おい図書館
代表 青木和子
松本市牧の原1-104-416
TEL 047-311-0886

「言葉の力

図書館を考える集い」

報告 青木和子

2月14日(水)、千代田区永田町の
憲政会館において、図書館議員連盟、
活字文化議員連盟、子どもの未来
を考える議員連盟、文字・活字文
化推進機構設立世話人会の主催で
開催されました。

2001年に「子どもの読書活動推進
法」、2005年に「文字・活字文化振
興法」が制定され、読書環境の整
備など活字文化の振興に向けて、
国の総合的な政策が進められてい
ます。これらの法律を熟知あるも
のにしようと、「文字・活字文化

推進機構」の設立が計画されて
おり、設立総会は2007年10月の予
定です。

設立世話人会には、井上ひさ

し・小峰紀雄・中川秀直・肥田
美代子・松居直の諸氏の他、教
育・経済・労働・流通・農林水
産・言論・出版などの分野の方
々が名を連ねています。

主催者挨拶・来賓挨拶・国会
議員紹介の後、4人の方々から
の報告・提言がありました。

◎村山隆雄国立国会図書館国際
子ども図書館長：「子どもの本
は世界をつなぎ、未来を拓く」
という理念のもと、日本初の児
童専門図書館として、国内外の

児童書やその関連資料に関する図
書館サービスを国際的な連携のも
とに行っている。

◎梅沢幸平滋賀県立図書館長：日
本の公立図書館の現状は、各国
との比較でも高いとはいえず、地
方の文化を支える施設としては危
機状況にある。以前は全国最下
位を低迷していた滋賀県の図書館
が最上位に上ったのは「住民サー
ビスを第一に」という基本に忠実
にやってきた結果である。

情報化社会では、様々な情報を
読取り発信できる力が国力となる。
◎笠木幸彦(社)全国学校図書館協議
会理事長：カナダやフィンランド
での視察では、「ゆっくり、じつ
くり」という骨太な指導要領のも
とに各種メディアが学習を支えて
いること、その中心は「本」であ
ることを見聞させた。

日本では貧困層が増え、格差が
拡大している。このような社会状

況の中で、学校図書館の差は学校差・地域差にむすびつき、進んでいるのではないか。

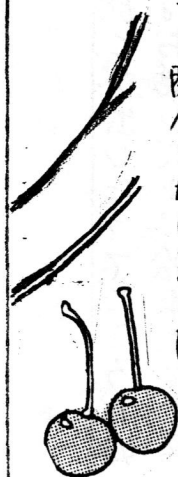
学校図書館には「本」があればよいのではない。子どもと本の橋渡しをする「人」が必要だ。学校図書館が良くなれば、子どもが良くなり、学校が良くなり、結果として国が良くなるだろう。

◎小谷野弘子さいたま市立春野中学校司書教諭：NE (News Paper In Education)「教育に新聞を」とは、世界50ヶ国余りで、新聞を教材として生かす学習が取入れられている。春野中学校でも学校図書館が中心となり、全校で取組んでいる。

記事スラップや投書欄を使った討論、広告や株式欄をもとにした経済教育、コラムを参考にした作文指導など、新聞の使い方はエ夫次第である。NEによって「子どもが社会に目を向けるようになる」「積極性が身につく」「意見を言

えるようになる」更に最近重視されるのは「情報を読み解く力がつく」ことだ。情報があふれる中で、情報をうのみにせず自分で判断する力を育むため、教材として使えるように幾つかの新聞が置かれている学校図書館の存在が当たり前になってほしい。

「私たちは自己研鑽と自己学習の場として図書館を利用する権利がある」という認識に立つて、図書館行政に光を当て、此の度策定された「新学校図書館図書整備5ヶ年計画」に基づく交付税措置(単年度で20億円、5ヶ年で100億円)が完全に実施されるよう、自治体に強く働きかける、というアピールを採択して、閉会となりました。



絵本の「読み聴き」体験

吉原里絵

△3月17日(土)▽

きょうは、取手に住む柴谷不二子さんに絵本を読んでもらったよ。テーマは「民話」。

『にんじんさんがあかいわけ』：あ、このお話し知っているよ。私の知っているのはね、せん湯の大きなおふろに行ったんだよ。だいこんさんはあらい場にずっといて、湯ぶねにはつからなかつた。

この絵本は、かわりばんこに入っているね。昔はおふろの下に火があつてエントツがついてたんだよね。私のおふろは「いつもごぼうで、たまにだいこん」だな。

『だいこんどのむかし』：あしんなにでつかくなつただいこんが「ゆきおろし」でおろされるよ。

と思つて泣くなんて、おつかし
しじぶんでエの中からぬけて歩いていく後ろすがたは「あいしゅう」をかんじるよ。でつかいのにごこへ行つたんだ？「たくわん」にでもなつたかな。

「たまごから うま」…うまがたまごから生まれるわけないでしょ。でも、あの男、うまい具合にだまされちゃつたよ。きつねを追つかけジャングルに入り、木から下がったサルの上っぽにつかまつて川にドボン。トウの背中に乗つて夜が明けるまで気づかないなんてさ。ところで、あんなに速く走れたのに、なんで足の速い馬がほしかつたんだっけ。

「たべられた やまんば」…これは詭んでもらえなかつたけど、私の好きなお話しの一つだよ。さいごにおしろうさんがやまんばをおだんごにして食つて、べんじょに行つたらしりからたくさんのハ

工がとび出したつてところが好きなお話だよ。絵本だとハエのところがないけれど、紙しばいだとどうだったかな。

「花さき山」…私は末っ子でいつも服は「おさがり」だったから、そよが新しいのがほしいって気持ち、よくわかるよ。おねえちゃんたちは、「あんたはいつもおこられないし、いつもあまやかされてずるい」ってよく言つていた。だからがまんするあやの気持ちかわかるだろうな。

「ぼくって だれ？」…わたしも姉に「橋の下で拾つてきた」「あんたの名前は私がつけた」って言われた。「ぼく」とちがつて姉妹「クリミツ」だったから気にしなかつたけれど、物語の「みなしご」にあこがれてた。きつと「ただ一人」つてところがいいんだろうな。

「もむたろう」…たいてい、

お話しを聞きはじめるところのお話しの一つだから、くり返し聞いておぼえている。「どんぶらこ」に「にっぽんいちのもむたろう」はしせんに口から出てくる。はじめの出会いも大事だけど、見方を変えるには「自由がほしいよう」これた社会にいないとできないよね。そうそう、太宰治版「桃太郎」は、ブラックユーモアがきいておもしろいよ。

私も「ジャポニカ学習帳」のふろくの話しをかい作して、友だちをわらわせていたよ。

さいごに柴谷さんは、私たち「おーい図書館」のために「ききょう」という日を讀んでくれたよ。「ききえないように」あかりをともしたて、もう一つともして、ともしたあかりをみんなに分けよう、「ききえないように」

柴谷さんは「バスラの図書館員」

も紹介されました。戦事下のイラク・バスラで、図書館員のマリアさんと近所の人々の働きによって図書館の本が守られた、という内容です。

本というものは、内容だけではなく、その本が存在するための耐えてきた歴史も伝わる、そこには「使命」を意識した図書館員という「人」の存在が大きく影響することを感じました。

〃小学3年生になったつもりで、柴谷さんの前置きがあったので、そのつもりになった感想です。しかし完全にたりきれぬというものではなく、なりそこない小学生とりました。もし楽しんで頂けたら嬉しいです。「読み聴き」の楽しさを、少しでもおすそわけできたいでしょうか。

柴谷さん、ありがとうございます。

静岡市の指定管理者問題 & 絵本の中の図書館

報告 青木和子

3月14日(木)、図書館建築研究会の第85回イベントに参加し、草谷桂子さんのお話を聴きました。草谷さんは、児童文学者・私設図書室「トモエ文庫」主宰・静岡市の図書館を良くする会長など、多方面で活躍しております。

2005年に浮上した静岡市立図書館地域館への指定管理者制度導入案に対して、様々な人達と力を合わせて市に働きかけた結果、計画は撤回・延期となりました。今後は「図書館のあり方検討委員会」が毎週会合を持ち、市民の意見を聴きながら、勉強・議論を重ねることになりました。

旧清水市と合併して間もない静岡市は、まだ問題山積みの状態で、
「地域の文化のバロメータ」である図書館の静岡市としての具体的なビジョン・計画の実現を目指して、根気強く気長に活動を続けたいと、静かな語り口ながら力強く報告されました。

27年前から自宅で続けておられる「トモエ文庫」での活動から学んだこととして、「子ども時代にとくさんの楽しい体験をしてほしいへその中心には絵本を」といろいろな大人に出会ってほしい等々。また「欧米の絵本の中にはしばしば図書館が出て来るが、文化・歴史の中で図書館が重く見られていることの表れだ」と、たくさんの実例をあげて話して下さいました。

